

キャラクター名  
大鳥居 躁 (おおとりい そう)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	小学生
	ブラックドッグ				
オプション		年齢	10歳ほど	性別	男
覚醒	素体	衝動	嫌悪	初期侵食率	35 %
出自	安定した家庭	経験	記憶喪失	邂逅	先輩

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	36
肉体	4	1	2			7	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	0	0	1			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ヴィブロウィップ	白兵	7r+4		10		マイナー使用で攻撃+5
メジャー	白兵	7r+18		10		
メジャー100	白兵	7r+20		10		
	白兵	25r+20				フルインストール

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品 (家族写真)	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
賢者の石	P	N		
選ばれし者	P	N		
日隈 琥珀	P	友情 N 嫌悪		
結塚晶	P	好意 N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2    残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ブラックドッグ	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-Lv (下限7)								
アタックプログラム	7	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: EA37、命中達成値+ [Lv×2]								
フルインストール	5	5	イニシアチブ	至近	自身	自動	100	
効果: EA41、そのラウンド中に行うあらゆるダイスを+ [Lv×3] する。								
ハードワイヤード	3	基+4	常時	至近	自身	自動	-	
効果: EA40、ブラックドッグ専用アイテムLv個取得。								
クロックフィールド	2	4	セットアップ	至近	範囲 (選択)	自動	-	
効果: EA34、そのラウンド中、対象の【行動値】を+5する。								
シークレットポケット	1	-	メジャー	至近	自身	自動		
効果: EA43、Lv個その他アイテムを体にしまう。								
タッピング&オンエア	1	1	メジャー	視界	効果参照	自動		
効果: EA43、無線傍受、情報送受信。場合によって〈知覚〉判定。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

元気がいっぱい常に笑顔絶やさないポジティブUGNチルドレン少年。  
選ばれし者。

電池切れ?で行き倒れているところをUGNに保護される。シークレットポケットにあった博士の手紙によると、自分は博士によって改造を施された正義の機械戦士であることや博士はライバルであるマッド博士の魔造機械兵たちの襲撃に連れ、躁を何とか逃がしたことが書かれていた!

博士の遺志を継ぎ、平和な日常を守るUGNチルドレンとして日々を過ごしている。  
逃げたときに襲撃を受けたせいか、記憶がすべてなくなってしまった! 名前は手紙に書かれていたためろうじて把握している。

…というのは全て台本だった。  
僕は本当にここにいるのいいのかな?

PC①用ハンドアウト  
ロイス:結塚晶 推奨感情:誠意/悔悟  
突然の襲撃、最後の記憶は支部が焼け落ちる光景と溶け落ちる晶の姿。  
目を覚ましたキミは賢者の石が欠けている事と石から晶の気配がしないことに気がつく。  
呼びかけても、意識を集中させても反応はない。どれだけ時間が経とうとそこからは賢者の石本来の力しか伝わってはこない。  
あの時何が起ったのか、こんな時どうすればいいのか。答えてくれる彼女はもうどこにもいなかった。  
「……。」